

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2026 年 1 月 21 日

学 長 殿

所属部局・職名  
 (所属・学年) 食農学類 准教授

申 請 者 名  
 (学会発表助成の場合は参加者名)

藤野 正也

助成の区分 (該当するものに○)	学会発表助成・学術出版助成・ <span style="border: 1px solid black;">学術論文発表助成</span>
研究活動名	Application of cell phone users' location data to visitor monitoring in natural parks: A case study of Mount Fuji
成 果 の 概 要	本研究では、ビッグデータ（携帯電話利用者の位置情報）を従来の収集方法で得られたデータと比較し、特に自然公園の目的地への訪問者モニタリング（例：遊歩道選択分析）の文脈において、その長所と短所を明らかにした。これは、NTT ドコモのモバイル空間統計（MSS）サービスによって自動的に生成される携帯電話ユーザーの位置情報（CLD）を用いた富士山に関するケーススタディに基づいて達成された。その結果、MSS にはいくつかの制限はあるものの、現地でのアンケート調査とは異なり、24 時間 365 日、全国規模のデータを生成できるという利点があり、従来の調査手法では通常アクセスできない特定の期間や時間帯の人口動態を測定できることが明らかになった。登山ルートを選択要因を離散選択型レクリエーション需要モデルで分析した結果、統計的に有意な結果が得られた。利用者のルート選択には、山小屋の数、救護所の数、およびルートの混雑度が影響していることが判明した。したがって、CLD は訪問者モニタリングへの応用において大きな可能性を秘めていると結論づけられた。